

職業奉仕の精神を実践してみた

あいおいニッセイ同和損害保険山形支店長として、私がロータリーで学んだ「職業奉仕の精神」は、支店運営の根幹を形づくる大きな指針となった。

私の掲げたGOALは二つである。①会社のMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）実現、②安心・安全なまちづくりへの貢献。この目標を達成するために最も重要なのは、メンバー一人ひとりが「本心で」行動し、価値観を共有して働くことであると考えた。

当社には七つのバリューがある。「お客さま第一」、「誠実」、「チームワーク」などの言葉は明確であるが、果たして日々の行動に腹落ちしているだろうか。

お客さまに「あなたで良かった」と言っていただけの仕事ができているか。誠実・親切・公平・公正に接しているか。仲間から「あなたと働けて良かった」と思ってもらえるチームワークを実践しているか。私は改めて自問自答した。

そのとき、ロータリーの四つのテストに出会い深く感銘を受けた。

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

このシンプルだが普遍的な基軸こそ、私自身、そして管下メンバーの言行を正す最も強力な指針であると確信した。

職業奉仕とは、難しい理念ではなく、日々の仕事をこの四つの問いで照らし続ける姿勢そのものである。

そこで私は支店方針として「利他の精神」を掲げた。相手の幸せを願う心で仕事をする。それを可視化するため「利他ポイント制度」をつくり、仲間同士が感謝を伝え合う文化を整えた。

また、全社員との面談を行い、私の真意と方針を丁寧に伝え続けた。取り組み開始から三ヶ月。山形支店は驚くほど変わった。全員が一斉に変わったわけではないが、多くのメンバーが「自分本位の仕事」から「利他的な仕事」へ舵を切り始めた。コミュニケーションは活発になり、職場の雰囲気は明るく、前向きに、互いを認め、尊重し合う空気が支店全体に広がっていった。その結果、会社のMVVは自然と浸透し、事故を減らす取り組みや地域の安全・安心への貢献活動に、メンバーが自発的に取り組むようになった。メンバーは自らの仕事に価値を見だし、社会に役立つ実感を持つことができた。

私はこの変化を目の当たりにし、ロータリーの「職業奉仕の精神」を支店に届け切ることの意義を深く感じた。メンバーが変われば、お客さまへの対応も変わる。

誠実な姿勢は必ず伝わり、信頼関係が強固になる。そしてその積み重ねが、地域の幸せにつながる。職業奉仕とは、まさに自分の仕事を通じて周囲を幸せにする営みであり、その実践が自らの幸福にもつながることを体感した。

今後も私は、四つのテストと利他の精神を胸に、仲間と共に山形の安心・安全な未来づくりに取り組んでいきたい。